

# 平成 24 年度第 4 回目

平成 24 年 10 月 27 日 (土) 午前 10:00～11:30

## 会 次 第

議題①活動報告・事故報告

議題②消防関係機関との連携

(概要)

議題① i. 9 月～10 月の活動報告

〈利用者行事等〉

- 9/15,16 敬老祝い (天文館ドライブなど各棟にて。記念品、メッセージカード等贈る)
- 9/30 十五夜団子作り
- 9/9,16,23 音楽療法活動 (棟別に約 1 時間、月 1 回の実施)
- 10/14,21,28 10 月から秋祭りに向けた合奏を練習)
- 9/7,21 園芸療法活動 (シソの実収穫と佃煮作り、花壇の草取りと)
- 10/5,19 花の植え付け、秋祭りのサンプルとしてミニ観葉作り)
- 10/21 すみれ棟ミニ運動会
- 9/13 - 11/2 看護学生実習 (8 名) 受けいれ

〈地域交流等〉

- 9/9 町内清掃 (1 名参加)
  - 10/11 吉野保育園児 (4 歳 14 名) との交流会 (写真を回覧)
- 〈職員関係〉
- 9/19 グループホーム給食関係者研修会 (1 名参加)
  - 10/1,2 防火管理者講習 (1 名参加)
  - 10/12 法人接遇研修会 (10 名参加)
  - 10/30 介護事業者のリスクマネジメント<国保連研修会> (1 名参加)
  - 11/2 おはら祭り前夜祭参加 (法人全体)

〈設備・運営関係〉

- 10/12 地域密着型サービス外部評価
- 10/16 レジオネラ属菌検査

ii. 事故報告

平成 24 年 9 月～10 月

ヒヤリハット 24 件／事故 1 件

内訳…軽度の転倒 4 件／薬関連 3 件／異食未遂 2 件／単独で屋外へ出た 1 件

他,要歩行介助者がベッドから降りようとした,単独歩行しかけていた等であった.  
原因…職員のミス,居室内,共用スペースの死角,行動の予測不足,本人の病識欠如等  
対策…見守り・巡視の強化,行動察知できるような工夫,薬の取り扱い手順の再確認

・大半が個室や死角での軽度の転倒や歩行の不安定を自覚していないことでの見守りが必要である状況について説明を加える。

議題②消防関係機関との連携 ～ 吉野分遣隊 隊員より講話

および 実施した避難訓練への指導等

避難訓練は、夜間に対応できるかどうかのポイント。近隣住民とは日頃から連携を取ることが望ましい。助けがないと非難は厳しいと考える。当事業所は1階建てのため避難はしやすい。訓練では避難場所まで誘導していたが、庭までの誘導で時間短縮できる。個人の情報が記載されたカードも有効だが、服用している薬の記載もあるとよい。声出しにおいては「火事だー！」と叫ぶよりは、「消防に連絡してください!」「避難誘導してください!」など指示的なものが行動しやすくなる。誰かが指揮を執ることも重要だ。

鹿児島では施設の火災は無いが、火災は火からだけでなく、電気コンセントからも起こりうるので、日頃から防災の意識が必要。

火災時は、低い姿勢で口元を押える。ほとんどは煙による一酸化炭素中毒で亡くなる。消防が到着した時は明確な情報を貰えると時間短縮につながる。避難の際は急に誘導するのではなく、まず一声掛け、安心感を持っていただくことも必要だ。

(各委員から気づいた点)

- ・情報カードは落としそうだった。→各人で携帯するのかファイルにするのか要検討
- ・門扉は半分でなく、全開したほうが避難しやすい。
- ・応援者は声を出し続けたほうが良いのではないか。
- ・防護用のクッションを掴めない利用者がいた。

以上

出席者；消防関係者,地域代表,家族代表,利用者代表,事業所代表等 計7名